



3 期目

就任あいさつ

東浦町長 神谷 明彦

7月16日に告示された東浦町長選挙で現職の神谷明彦町長(60歳)が、無投票で当選し、引き続き町政を担うこととなりました。

皆やまじゆせわ

「幸せと絆を実感できるまち 東浦」をつくってまいります

これから超高齢社会を迎えるにあたって必要なことは、互いに顔が見え、支え合える地域のコミュニティづくりです。そして、子どもたちが伸び伸びと個性豊かに育ち、生涯にわたり好奇心をもって学び、やりがいをもって活躍できる教育・人づくりです。

それらを育む土台として、多様な生き物のすむ豊かな自然環境を守り、ほっとする田园風景を農の営みとともに残し、歴史ある東浦の文化や街並みを大切にしつつ、安全で快適な道路、住み良い都市空間をつくる必要があります。東浦町の東西を走る2つの鉄道や町運行バス「つ・ら・ら」などの公共交通を生かし、自動車に過度に依存しなくても買い物や福祉にアクセスできる生活インフラの充実を図っていかねばなりません。また、人の生きがいにもつながる働く場、町の経済活動をつくり出す場としての産業の創生・発展を応援していきます。

3 期目に特に重点的に行う事業は、コンパクトなまちづくりの充実です。東浦町は、もともと小さなまちに多くの鉄道駅があり、駅の近くに6つの集落があります。この構造を大切にしつつ、駅の近くと集落の隙間に都市の発展の余地をつくり、徒歩圏で暮らせるまちづくりを進めていきます。町内や医療機関への移動はバスとJRでカバールし、都市間の移動は鉄道でカバールします。発展の余地としては具体的に、緒川新田地区、東浦駅周辺地区、緒川と森岡の隣接地区を考えています。これらの場所では道路整備と土地利用を進めます。

インフラ整備は量的充足の時代から質的充実の時代に入りました。自然や歴史的背景を生かした、美しい景観づくりや居心地の良い空間づくりを進めていきます。この分野は日本においてはまだまだ認識が薄く、時間をかけて先んじて取り組んでいくことに

よって、まちの価値を高め、他と差別化することが可能になります。

あと10年ほどすると、昭和の高度成長期に建築した公共施設が次々に耐用年数を迎えます。これらを計画性をもって、効率的、効果的に建て替えていく必要があります。将来の使い方を工夫し、機能を集約したり、幅広い世代が交流できるような施設を統合したりすることを考える必要があります。さっそく具体的な計画づくりを始めたいと思います。

以上の重点的な取り組みを住民の皆さまとともにスピード感をもって進めてまいります。まちづくりは皆さまの主体的な参画なくしては実現しません。これまでの感謝と、引き続き皆さま方の温かいご理解とご協力をお願いしまして、3 期目就任のご挨拶とさせていただきます。